

牛久：学校周辺に見る自然

第46号 ひたち野西近隣公園(ひたち野うしく小)

2013年1月9日発行

＜水辺公園、秋の動物たち ～冬越しに備えて ⑤その他の昆虫，クモ＞

11/8、ひたち野うしく小4年生との水辺公園、秋の観察。今回は①～④以外の昆虫やクモの仲間。



ゴズイの枝にびっしり付いていたゴズイノフクレアブラムシ。翅(はね)のないものは、写真のように白く粉を吹く。

まずは、アブラムシ。ゴズイの果実の写真をとっていたら、葉のつけ根などにびっしりとアブラムシがついていました。黄色っぽい体ですが、翅(はね)のないものは白い粉を吹いていて白っぽく見えます。夏にはヤブカンゾウなどユリ科の仲間に寄生しますが、アブラムシの仲間にはこのゴズイノフクレアブラムシのように季節によって寄生する相手を変えるものがけっこう知られています。



葉の上についていたナミテントウのさなぎ(左)。別種のように見えるが、右もナミテントウのさなぎ。幼虫期の温度が低いと黒い部分が多くなることを、当時小野川小6年生の村田君が、科学研究作品展で発表している。

アブラムシといえば、それらを専門に食べる昆虫もいましたね。そう、テントウムシの仲間です。上の写真はどちらもナミテントウのさなぎですが、色やもようが全然違いますね。どうやら、幼虫の時期を低温で過ごすると黒い部分が多くなるらしいことを、当時つくば市立小野川小6年生だった村田篤君が、児童生徒科学研究作品展で発表しています。とてもすばらしい研究で、皆さんのお手本にもなると思います。 <http://www.tsukuba.ed.jp/~298kids/modules/kidsscience/index.php/tebiki/20/073-076.pdf>

興味ある方は、どうぞ読んでみて下さい。



交尾中のヘラクヌギカメムシ。あしも含めて赤みを帯び、メス(左)の腹部ふくぶははち切れそうにふくらんでいる。

次はカメムシ。コナラの枝をゆっくり移動するものがあり、遠目にはナナフシのように見えて近づいてみると、交尾中のヘラクヌギカメムシとおめでした。クヌギやコナラなどの汁を吸って生き、卵で冬越しします。左の腹がはち切れそうなくらいにふくらんでいるのがメスです。どちらも触角のつけ根やあしなどが赤みを帯びていますが、秋になるとこのようになるものがあるそうです。「婚姻色(こんいんしょく)」の一種なのでしょうか??



ハンノキの幹にいたヨコヅナサシガメの幼虫。

左は、おなじみのヨコヅナサシガメの幼虫。たくさん集まって、木の幹みきなどのくぼみにかたまって冬を越しているのを見かけます。中国原産の昆虫で、以前は西日本を中心に分布していたそうですが、東へ分布を広げ、いまでは茨城県など関東でもふつうに見られます。このグロテスクな姿で桜などの幹にかたまっていることから、木を枯らす害虫がいちゅうと思われがちですが、じつは葉を食べる害虫の体液を吸う益虫えきちゅうだということは、何度も紹介してきましたね。



林のふちをながめながら歩いていると、幹をよじ登る甲虫がいました。パッと見てセンチコガネ?と思いましたが、どうも違う…。調べてみると、コカブトムシつという、オスの角がとても小さいカブトムシの仲間であることが分かりました。こちらは角が見あたらないので、メスなのでしょう。雑木林の朽ち木や倒木とうぼくなどにみられ、昆虫の死骸しがいなどを食べるそうです。今年は定期的に水辺公園の生きものを観察していますが、いろいろな動植物が見つかり、おもしろいですね。幹をよじ登るコカブトムシ。樹液ではなく昆虫の死がいなどを食べ、オスの頭部には小さな角がある。



自分よりも大きなヒロヘリアオイラガの幼虫をつかまえ、枯葉のかげにかくれるオオヒメグモ(左)と、水路の雑草の中で網を張り、えものを待つナガコガネグモ(右)。

幹に枯葉と緑のまゆがぶら下がっている？と、近づいてみると、まゆと思ったのはヒロヘリアオイラガの幼虫で、枯葉のかげにはクモがいました。ヒメグモ科の**オオヒメグモ**のようです。立体的なカゴのような網を張るのが特ちょう。

水路の雑草の中では、**ナガコガネグモ**が網を張って、えものを待っていました。腹部背^{ふくぶ}中側の細く黒いしまもようと、あしを2本ずつそろえるのが特ちょう。



最後に、ガマズミの葉の裏にいた奇妙な昆虫。全身トゲだらけのような変な虫ですが、何の仲間なのでしょう？アブラムシの仲間にも綿毛のようなものでおおわれる仲間がいますが……。もし、ご存じの方がいらっしゃいましたら、教えていただければと思います。

【理科支援員 宮内】

ガマズミの葉の裏にいた、全身トゲのようなものでおおわれた変な昆虫。